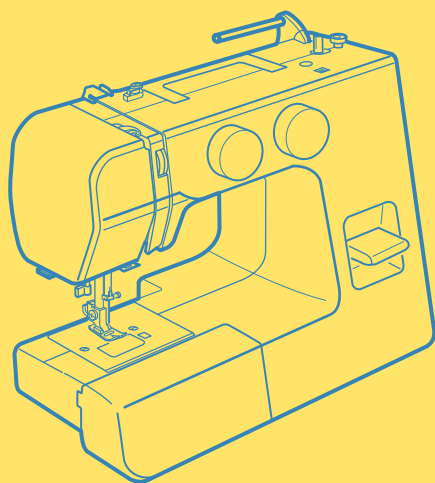


# 取扱説明書



**JANOME**




# 安全上のご注意





- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

## 危害・損害の程度を表わす表示

 <b>警告</b> この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 <b>注意</b> この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

## 本文中の図記号の意味

 △記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
 ⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
 ●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 <b>警告</b> 感電・火災の原因になります。	 <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因になります。
 <b>必ず実行</b> 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	 <b>禁止</b> ミシンの通風口はふさがないようにしてください。 また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまるないようにしてください
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき	 <b>注意</b> お子様がお使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 <b>必ず実行</b> 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。	 <b>必ず実行</b> ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
 <b>必ず実行</b> ストープ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。(ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。)	 <b>必ず実行</b> 針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 <b>必ず実行</b> スプレー製品などガス類を使用した引火しやすいところでは使用しないでください。	 <b>必ず実行</b> 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因になります。	 <b>必ず実行</b> 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 <b>分解禁止</b> お客様自身での分解はしないでください。	 <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
 <b>接触禁止</b> ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	 <b>必ず電源プラグを抜く</b> ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
 <b>禁止</b> ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。	
 <b>禁止</b> フットコントローラーの上に物をのせないでください。フットコントローラーを使用するときは、周辺に糸くずやほこりがない事を確認してください。	
 <b>禁止</b> 曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。	
 <b>禁止</b>	

# 目次

## お使いになる前に

- おとり扱いについてのお願い ..... 2

## 各部の名まえと標準付属

- 各部の名まえ ..... 3
- 標準付属品 ..... 4
- 糸立て棒の取り付け方 ..... 4

## 操作方法

- 補助テーブルの外し方、付け方 ..... 5
- フリーアームの使い方 ..... 5
- 電源のつなぎ方 ..... 6
- 速さの調節 ..... 6
- 返しぬいレバー ..... 7
- 送り歯のあげ方・さげ方 ..... 7
- 押さえのあげ方・さげ方 ..... 7
- 押さえの外し方・付け方 ..... 8
- 押さえホルダーの外し方・付け方 ..... 8
- 針の取かえ方 ..... 9
- 布に適した糸や針を選ぶ目安 ..... 9
- 下糸の準備 ..... 10 ~ 12
  - ★糸こまの取り付け ..... 10
  - ★ボビンの取り出し ..... 10
  - ★ボビンに下糸を巻く ..... 11
  - ★ボビンの内がまセット ..... 12
- 上糸の準備 ..... 13 ~ 15
  - ★上糸のかけ方 ..... 13
  - ★糸通しの使い方 ..... 14
  - ★下糸の引きあげ方 ..... 15
- 糸調子の合わせ方 ..... 16
- 模様の選び方 ..... 17
- ぬい目のあらか調節ダイヤル ..... 18
  - ★ぬい目のあらか調節 ..... 18
  - ★スーパー模様の形の整え方 ..... 18

## 実用ぬい

- 直線ぬい ..... 19
  - ★ぬい始め ..... 19
  - ★ぬい方向の変更 ..... 19
  - ★ぬい終わり ..... 19 ~ 20
- 針板ガイドラインの使い方 ..... 20
  - ★コーナーリングガイドの使い方 ..... 20
- ジグザグぬい ..... 21
- ジグザグぬいのたち目かがり ..... 21
- トリコットぬいのたち目かがり ..... 22
- つくろいぬい ..... 22
- ニットステッチ ..... 23
- 三重ぬい ..... 23
- ボタン付け ..... 24
- ボタンホール ..... 25
- 芯入りボタンホール ..... 26
- ファスナー付け ..... 27 ~ 29
- まつりぬい ..... 30

## 飾りぬい

- ピンタック ..... 31
- アップリケ ..... 31
- シェルタック ..... 32
- パッチワーク ..... 32
- スモッキング ..... 33
- スーパー模様 ..... 33

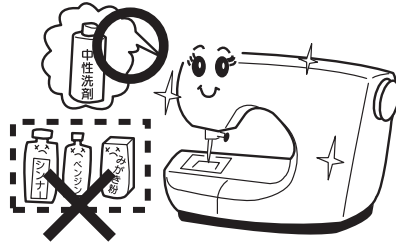
## ミシンのお手入れ

- かまと送り歯の掃除 ..... 34
- 内がまと針板の組み付け ..... 35
- ミシンの調子が悪いときの直し方 ..... 36

# お使いになる前に

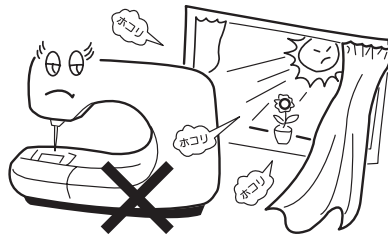
## ●おとり扱いについてのお願い

### ◇ ご使用の前に

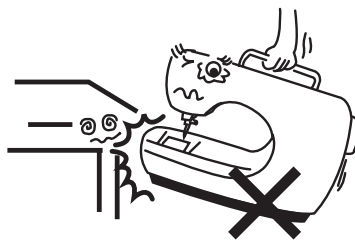


- ① めう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。  
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

### ◇ いつまでもご愛用いただくために



- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ③ 落としたり、ぶついたりするなど衝撃を与えないでください。  
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

### ◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(36 ページ)により点検・調整を行ってください。

# 各部のなまえと標準付属

## ●各部のなまえ

糸立て棒

糸巻き糸案内

※ 糸立て棒は標準付属品に入っています。  
取り付け方は4ページをごらんください。

糸案内

天びん

ぬい目のあらか調節ダイヤル

面板

模様選択ダイヤル

糸切り

返しぬいレバー

糸通し

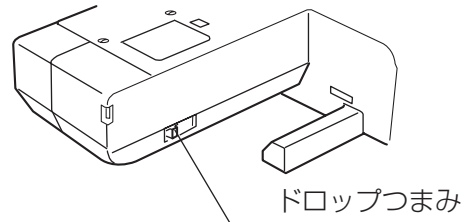
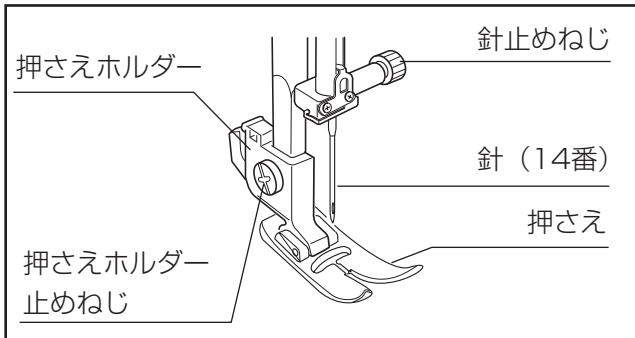
糸調子ダイヤル

針板

角板開放ボタン

補助テーブル

角板



糸巻き軸

手さげハンドル

ボビン押さえ

押さえ上げ

はずみ車

通風口

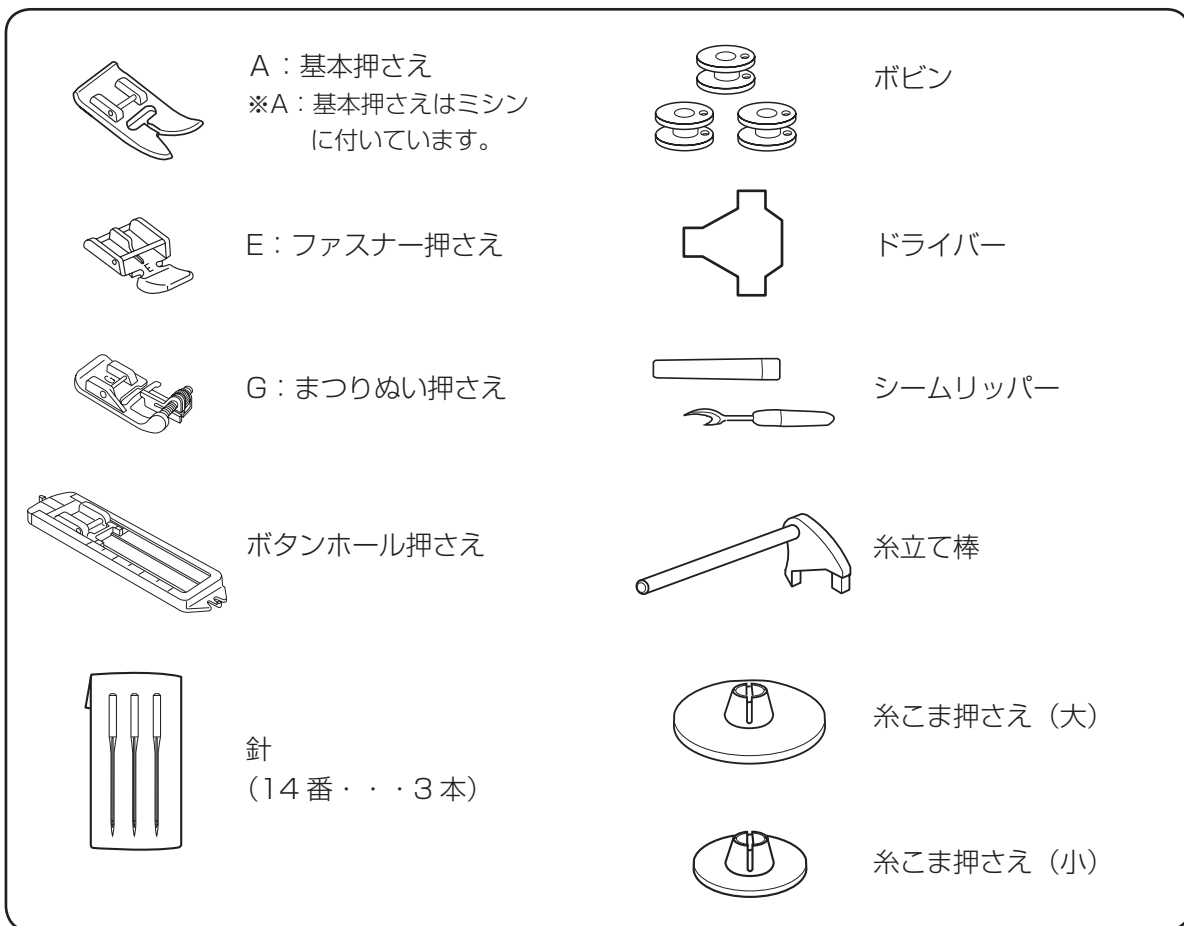
電源スイッチ

プラグ受け

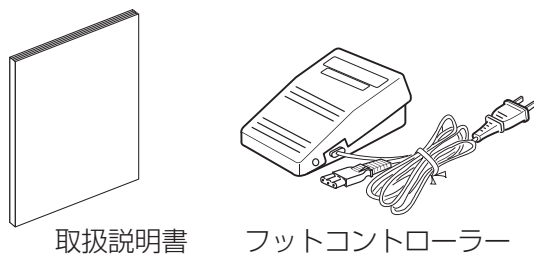
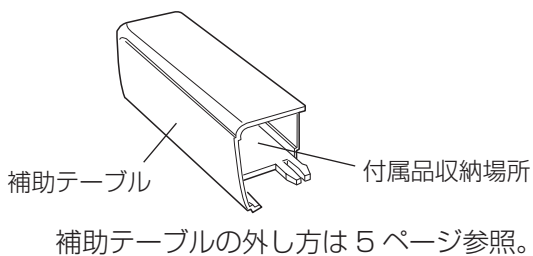
フリーアーム

※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

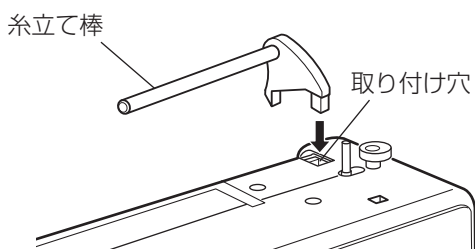
●標準付属品（補助テーブルの付属品収納場所 ※に入っています。）



※付属品収納場所



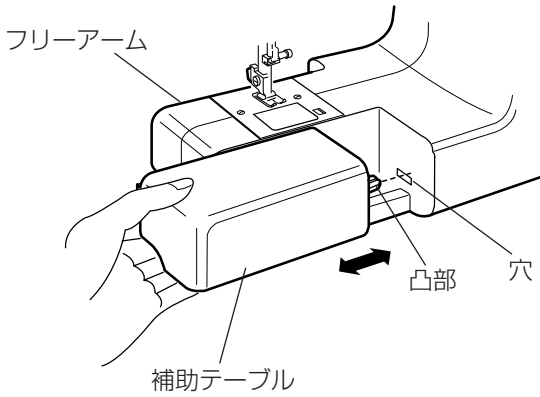
●糸立て棒の取り付け方



糸立て棒を取り付け穴に差し込んで取り付けます。

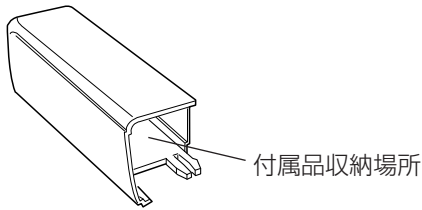
# 操作方法

## ●補助テーブルの外し方、付け方



補助テーブルの下側に手をかけて、横に引いて外します。

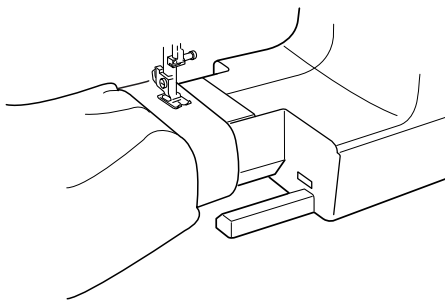
補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、補助テーブル凸部を穴に入れて取り付けます。



### (付属品収納場所)

押さえ等の小物は、補助テーブルに収納できます。

## ●フリーアームの使い方

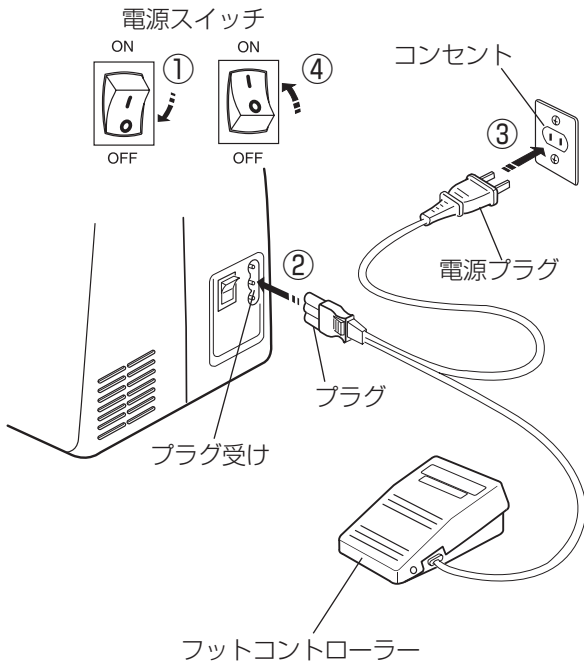


補助テーブルを外すと、フリーアームになります。そでぐちやすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

## ●電源のつなぎ方

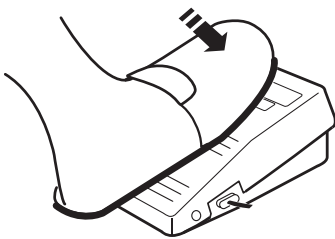
### ⚠ 警告

- ・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
- ・ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、火災の原因になります。
- ・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。ほこりなどが付着していると湿気などにより、絶縁不良となり火災の原因になります。



- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② プラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

## ●速さの調節



フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。

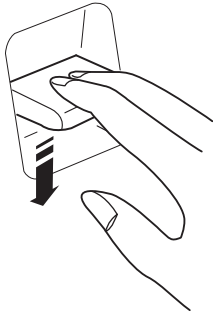
※フットコントローラーをふみ込んでもミシンが動かない場合は、もう一度電源を入れなおして、フットコントローラーをゆっくりふみ込んでください。

### ⚠ 注意

- ・フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因になります。
- ・フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けが・故障の原因になります。

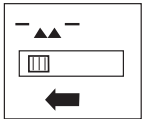


## ●返しぬいレバー

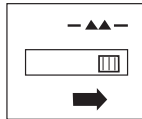


ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだはミシンは返しぬいをし、手をはなすと前進ぬいにもどります。

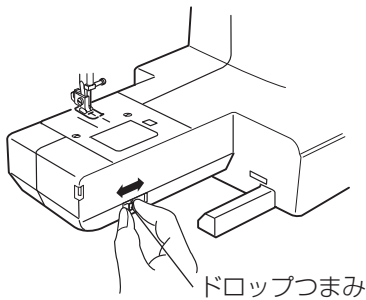
## ●送り歯のあげ方・さげ方



送り歯をさげる位置



送り歯をあげる位置



ドロップつまみ



はずみ車

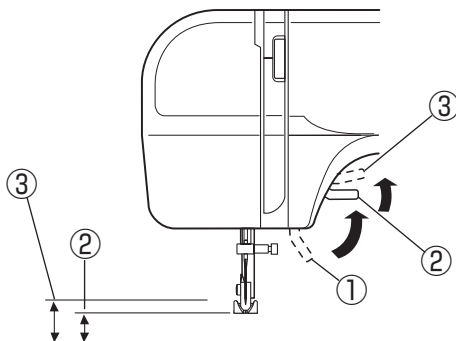
ボタンつけなどで送り歯をさげるときには、ドロップつまみを動かし、さげる位置にセットします。

手ではずみ車を手前にまわし、送り歯がさがっていることを確認してください。

※ ぬいが終わったら、ドロップつまみをあげる位置にセットします。

手ではずみ車を手前にまわし、送り歯があがっていることを確認します。

## ●押さえのあげ方・さげ方



押さえ上げで、押さえのあげ下げを行います。普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚い布を入れるときに使用します。

① 押さえ上げをさげた位置

・・・ぬいのはきは、さげておきます。

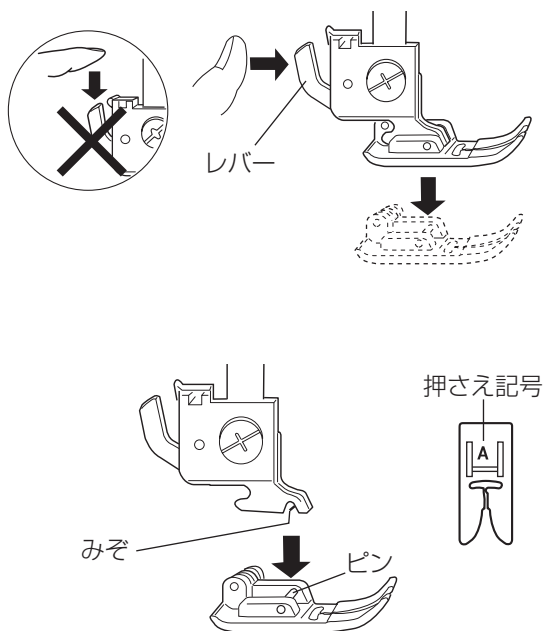
② 押さえ上げを普通にあげた位置

・・・布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。

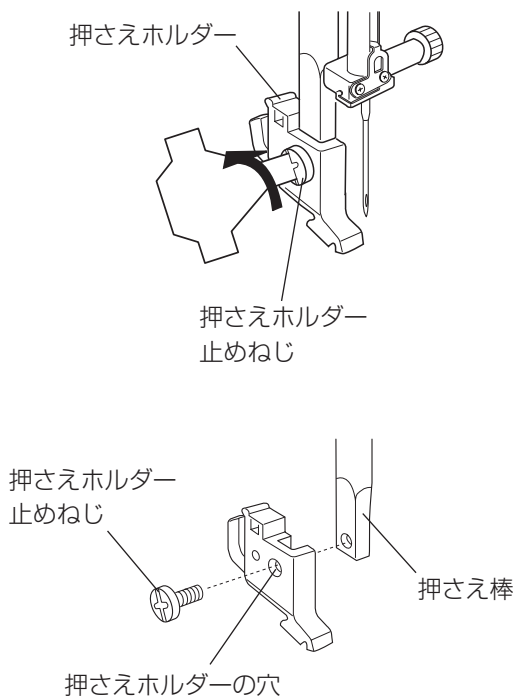
③ 押さえ上げを普通にあげた位置よりさらにあげた位置（固定することはできません。）

・・・厚い布などが入れやすくなります。

## ●押さえの外し方・付け方



## ●押さえホルダーの外し方・付け方



### ⚠ 注意

押さえの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

### 【押さえの外し方】

- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
- ※ 押さえ上げのあげ方は、7ページをごらんください。
- ② 押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。
- ※ レバーを上から押さないでください。故障の原因になります。

### 【押さえの付け方】

- 押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをゆっくりさげます。
- ※ 押さえは、模様にあったものを使用してください。押さえには記号が付いています。

### ⚠ 注意

押さえホルダーを外すときや、付けるときには、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

- ※ 押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

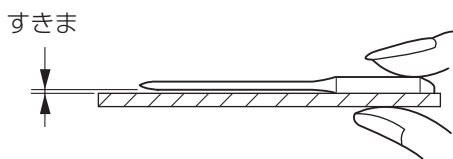
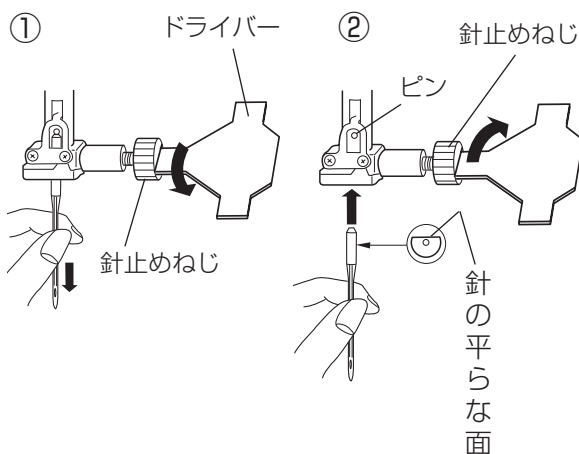
### 【押さえホルダーの外し方】

- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
- ② 押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

### 【押さえホルダーの付け方】

押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダー止めねじをドライバーで右にまわしてしっかりと固定します。

## ●針の取りかえ方



### ⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。けがの原因になります。

- ① 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。
- ② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをしっかりとしめます。

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。

針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

## ●布に適した糸や針を選ぶ目安

※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA×1）を使用してください。

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～11 番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	綿 糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～90 番	11 番～14 番
		綿 糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ジャージー コート地	綿 糸 40 番～50 番 ポリエステル 40 番～50 番	14 番～16 番
		ポリエステル 30 番 綿 糸 30 番	16 番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。  
この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはぎれを使って試しぬいをしてください。

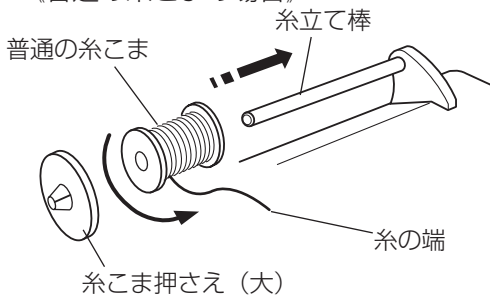
※ 原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布地（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメブルー針（別売）を使用すると目とび防止効果があります。

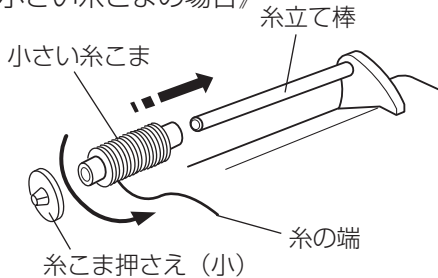
## ●下糸の準備

### ★糸こまの取り付け

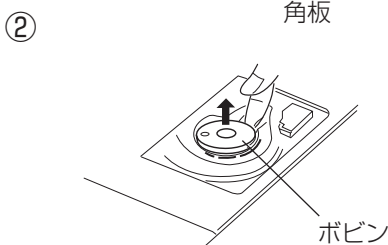
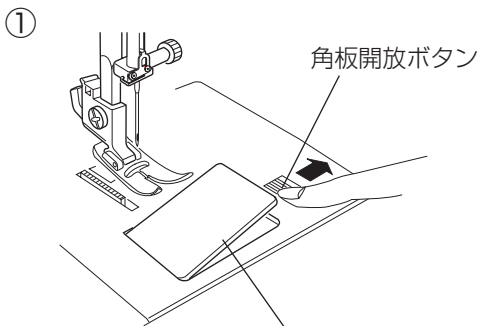
《普通の糸こまの場合》



《小さい糸こまの場合》



### ★ボビンの取り出し



※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

糸立て棒に糸の端が下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

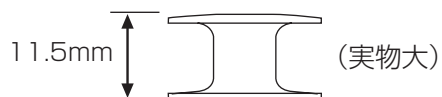
※ 普通の糸こまには、糸こま押さえ（大）を、小さい糸こまには、糸こま押さえ（小）を使います。

① 角板開放ボタンを右にずらして角板を外します。

② ボビンを取り出します。

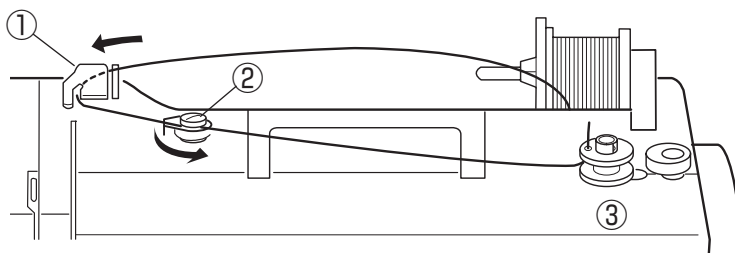
#### お願い

- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。（お買い上げの販売店へご相談ください。）

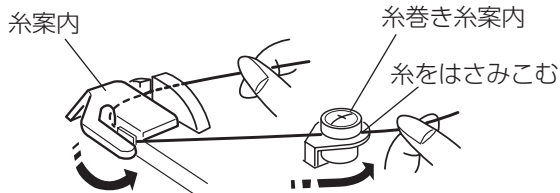


- 金属ボビンは使用しないでください。かまにマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。

## ★ボビンに下糸を巻く



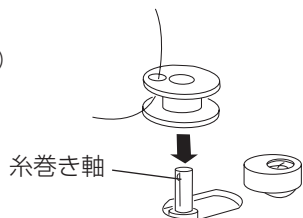
① ②



※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

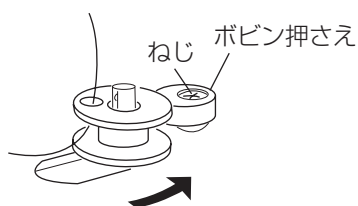
- ① 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内に向こう側からかけ、手前に出します。
- ② 糸巻き糸案内に糸をしっかりはさみこむようにかけます。

③



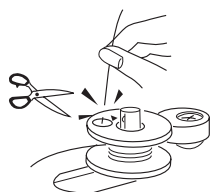
- ③ ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

④



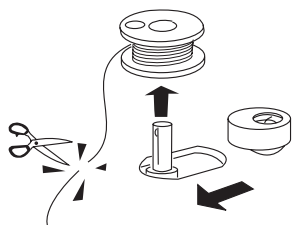
- ④ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。
- ※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。部品が外れることがあります。

⑤



- ⑤ 糸の端をつまんだまま、ミシンをスタートして巻き始めます。
- ボビンに糸を約3秒間ほど巻き付けたらミシンを止めて穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。

⑥

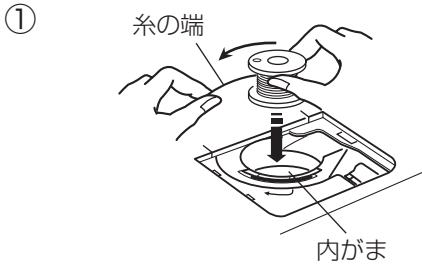


- ⑥ 再びミシンをスタートし、巻き終わったらミシンを止めます。
- 糸巻き軸をもとにもどし、ボビンを外して糸を切ります。
- ※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

## ★ボビンの内がまセット

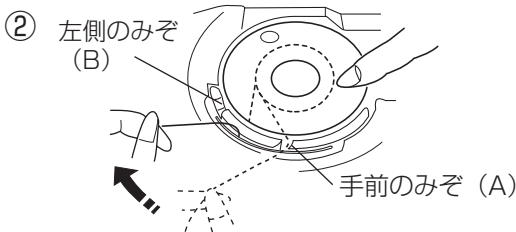
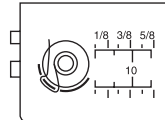
### ⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。  
けがの原因になります。



① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

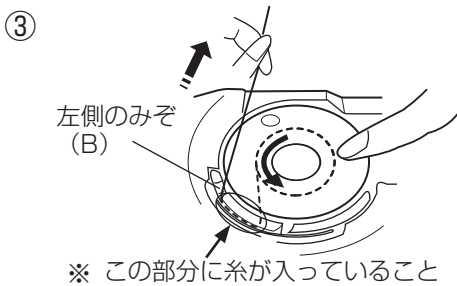
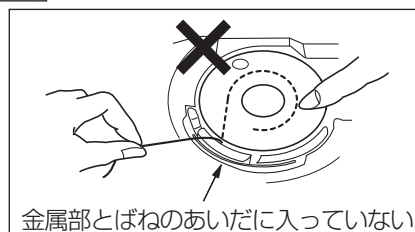
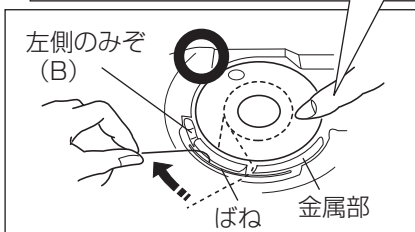
※ 角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。



② 糸の端を引きながら、手前のみぞ (A) にかけます。

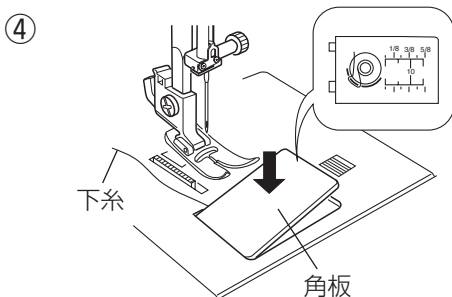
糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ (B) のところに出します。

※ 糸をかけるときは、ボビンが回転しないよう、指で押さえてください。



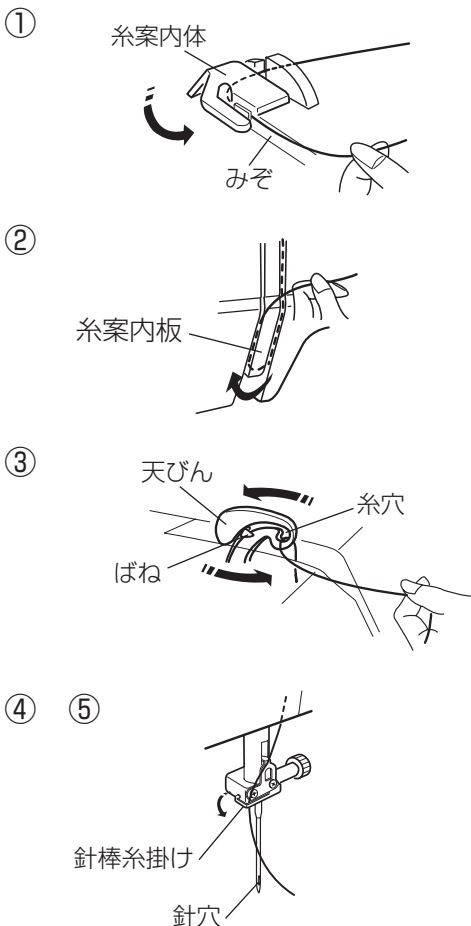
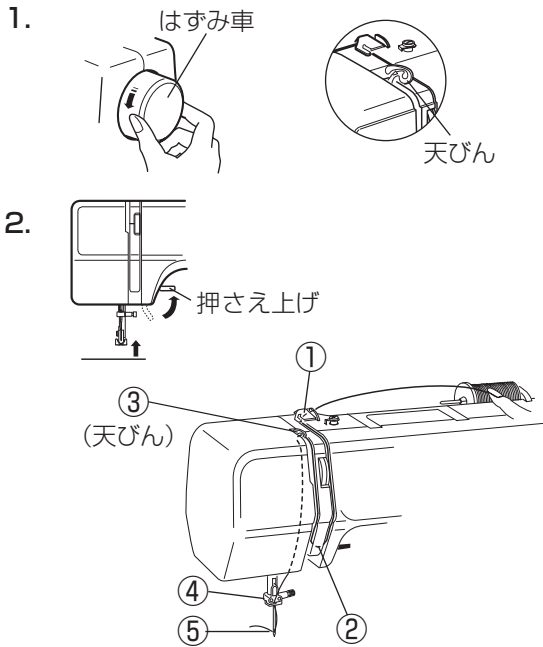
③ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように、向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。



④ 下糸は、10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

## ●上糸の準備 ★上糸のかけ方



### ⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。  
けがの原因になります。

※ はじめに、下記の(手順1)を必ず行ってください。ぬい不良の原因となります。

#### (手順 1)

1. はずみ車を手で手前にまわして、天びんをいちばん上に出します。
2. 押さえ上げをあげます。

※ 押さえがあがった状態で上糸をかけないと、糸がらみの原因になります。

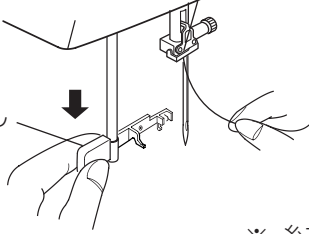
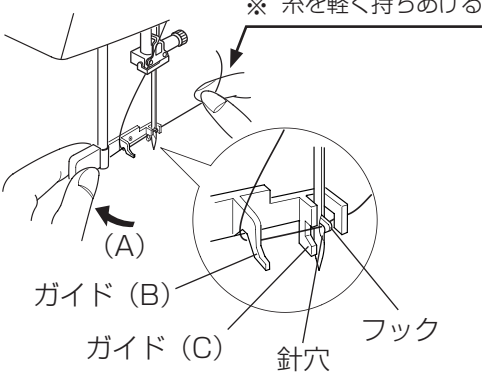
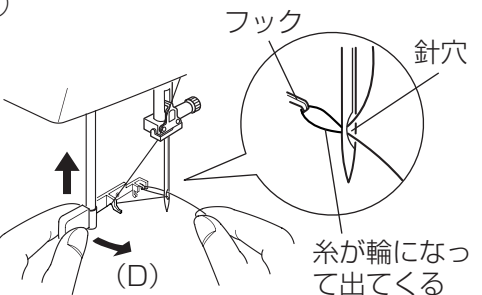
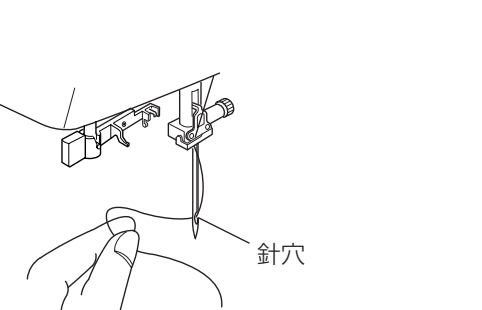
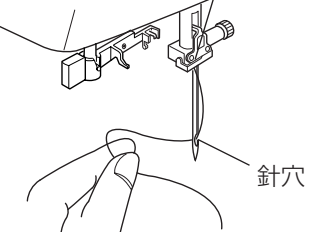
#### (手順 2)

- ① 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内体の下に巻きつけるようにかけ、みぞにそって手前に引き出します。
- ② 糸案内板にそっておろし、下をまわして左上に引きあげます。
- ③ 糸こま側の糸を押さえ、天びんの右からうしろをまわして左に出し、ばねを通過させて糸穴に入れます。  
手前に引き出してまっすぐ下におろします。  
※ 糸を糸穴にしっかり入れてください。
- ④ 針棒糸掛けに左からかけます。
- ⑤ 針穴へは糸通しを使って、手前側からうしろ側へ糸を通します。  
※ 糸通しの使い方は、14ページをごらんください。

## ★糸通しの使い方

### ⚠ 注意

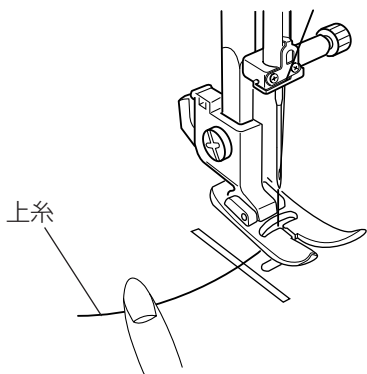
糸通しを使用するときは、必ず電源スイッチを切ってください。  
けがの原因になります。

- ①  糸通し
- ②  ※ 糸を軽く持ちあげる
- ③  フック 針穴
- ④  糸が輪になって出てくる
- ⑤  針穴
- ※ 針は家庭用ミシン針 (HA×1) の11番～16番、糸は50番～90番が使用できます。
- ① 上糸かけのときに針をあげた状態のまま、糸通しをいちばん下までさげ、保持します。
- ② 糸通しを矢印方向 (A) へまわし、フックを針穴に入れます。  
糸をガイド (B) の左側から下にまわし、ガイド (C) のくぼみに下からそわせながらフックにかけます。
- ※ 右手に持っている糸は、ガイドとフックのあいだの糸がたるまない程度に軽く持ちあげてください。
- ③ 糸通しを矢印方向 (D) へまわすと、フックにかけた糸が、針穴の後ろから輪になって出てきます。糸が出てきたら、右手に持っていた糸をはなしてください。
- ④ 糸通しを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。
- ⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の輪を引き出します。



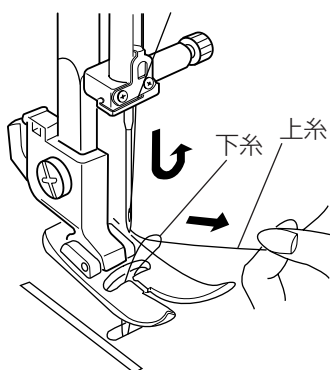
## ★下糸の引きあげ方

①



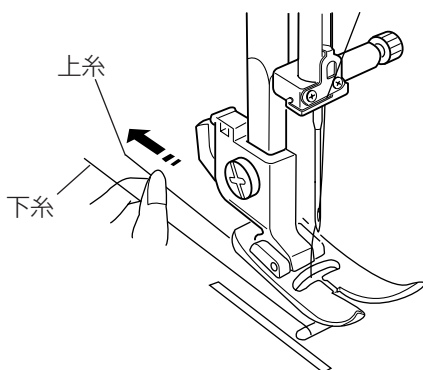
① 押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。

②



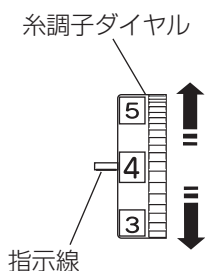
② はずみ車を手前に1回転させ、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③



③ 上糸と下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて10cmくらい出します。

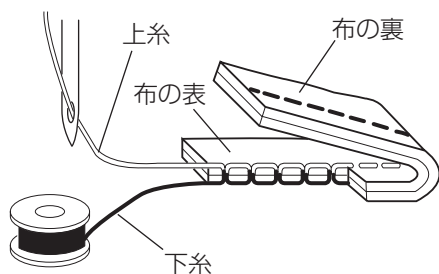
## ●糸調子の合わせ方



糸調子は特殊なぬい以外は、糸調子ダイヤル「4」を指示線に合わせてぬいます。

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして上糸と下糸のまじわる位置を調節します。

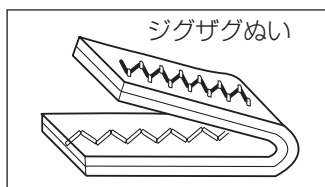
### 【1】



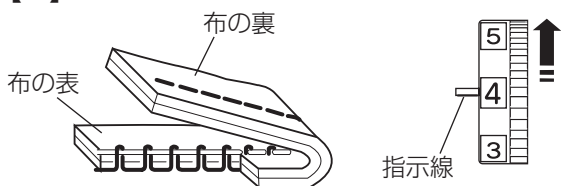
### 【1】 バランスのとれた糸調子

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。



### 【2】

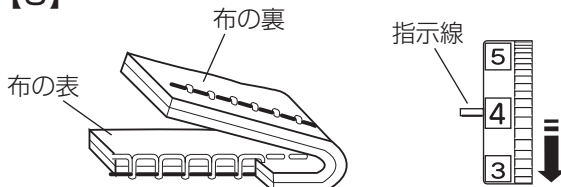


### 【2】 上糸が強すぎる時

※ 下糸が布の表に出ます。

糸調子ダイヤルまわし、小さな数字を指示線に合わせます。

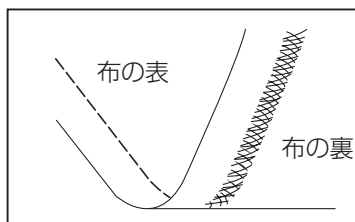
### 【3】



### 【3】 上糸が弱すぎる時

※ 上糸が布の裏に出ます。

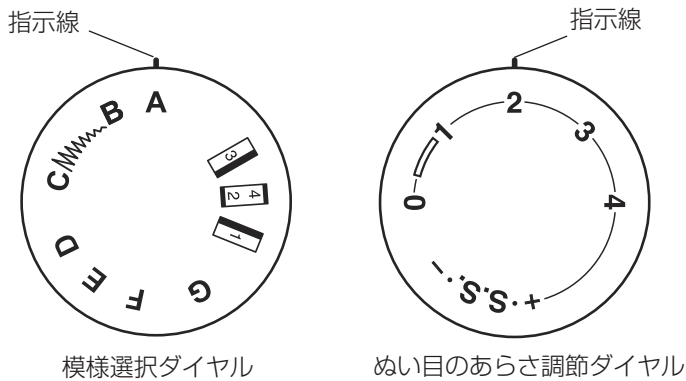
糸調子ダイヤルをまわし、大きな数字を指示線に合わせます。



### 布地の裏がタオル地のような場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなのは、上糸の糸調子が弱い、上糸のかけ方が間違っています。上記のやり方で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。「●上糸の準備 / ★上糸のかけ方」(13 ページ) 参照

## ● 模様を選び方



手ではずみ車を手前にまわし、針をあげます。  
 模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を指示線に合わせます。

※ 針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

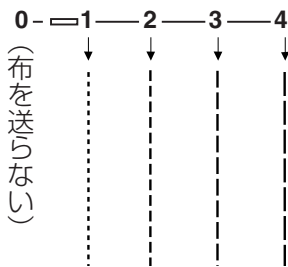
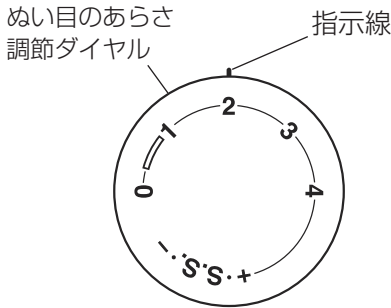
《模様選択ダイヤルとぬい目のあらかさ調節ダイヤルは、下の表を目安にセットします。》


直線／ジグザグ模様		<b>A</b> — ↕	<b>B</b> — ↕	<b>C</b> — W	<b>D</b> — W	<b>E</b> — W	<b>F</b> — W	<b>G</b> — W
ぬい目のあらかさ調節ダイヤル	 (0.5 ~ 1)	1.5 ~ 4	0.5 ~ 4	0.5 ~ 2	1 ~ 3		2 ~ 3	
スーパー模様	—	<b>A</b> — ↕	<b>B</b> — ↕	<b>C</b> — W	<b>D</b> — X	<b>E</b> — W	<b>F</b> — W	<b>G</b> — W
ぬい目のあらかさ調節ダイヤル	—	S.S.						



※スーパー模様は、前進ぬいと後進ぬいがある模様です。

## ●ぬい目のあらか調節ダイヤル

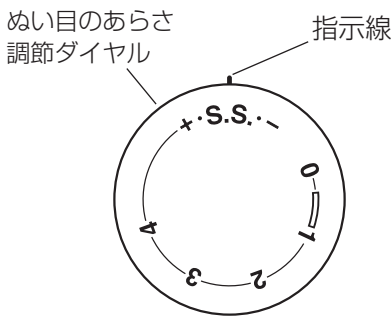
### ★ぬい目のあらか調節










選んだ模様のぬい目あらかは、ぬい目のあらか調節ダイヤルでかえることができます。ぬい目のあらか調節ダイヤルをまわして、指示線にぬいたいあらかの数字を合わせます。数字は、ぬい目のあらかの目安をミリメートルで表示しています。「0」～「1」のあいだにある(  ) マークは、ボタンホールのぬい目のあらかの調節範囲を示します。

※ 直線模様 (  ) または (  ) を選んでぬい目のあらか調節ダイヤルをまわすと、ぬい目のあらかは図のように変化します。数字が大きくなると、ぬい目はあらかくなります。

### ★スーパー模様の形の整え方



スーパー模様 (        ) は、ぬい目のあらか調節ダイヤルをまわして S.S. を指示線に合わせて選びます。糸や布などにより、模様がくずれる場合があります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれている場合には、下図を参考にぬい目のあらか調節ダイヤルを「+」または「-」方向へまわして、調節してください。

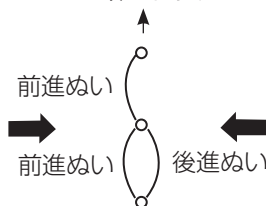
【例・模様 】

《模様がつまっているとき》  
ぬい目のあらか調節ダイヤルを「+」の方へまわします。



(形が整う)

前進ぬいと後進ぬいのぬい目あらか位置が一致します。



《模様が伸びているとき》  
ぬい目のあらか調節ダイヤルを「-」の方へまわします。



# 実用ぬい

## ●直線ぬい

### ミシンのセット

模様

A

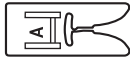


または

B



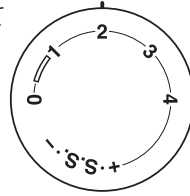
押さえ



A: 基本押さえ

ぬい目のあかさ

1.5 ~ 4

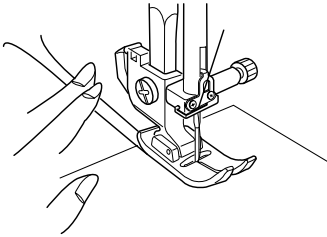


糸調子

2 ~ 6



### ★ぬい始め

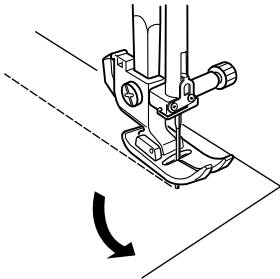


- ① 上糸と下糸を押さえの下を通し、向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手で手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。

- ② 押さえ上げをさげてぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

### ★ぬい方向の変更



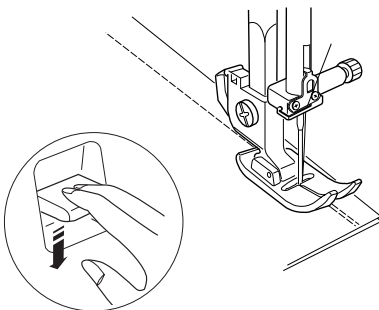
- ① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを止めます。

- ② はずみ車を手で手前にまわして針を布にさし、押さえ上げをあげます。

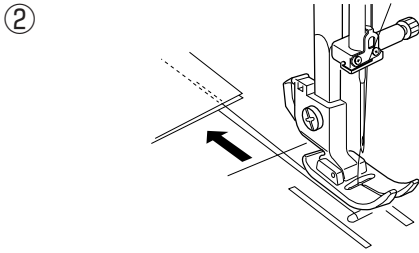
- ③ 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえ上げをさげてぬい始めます。

### ★ぬい終わり

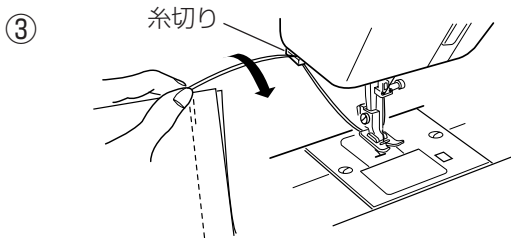
①



- ① 返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

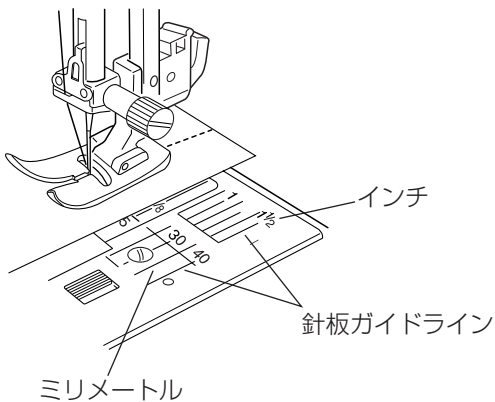


② 押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



③ 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

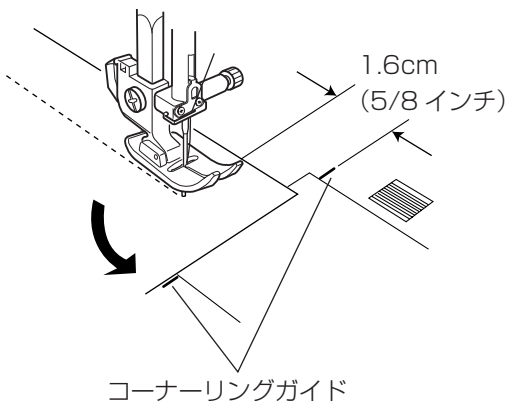
## ●針板ガイドラインの使い方



針板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドラインを表示しています。

ガイドラインの数字は、針穴中央（ぬい位置）からの距離を「ミリメートル」と「インチ」で表示していて、布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

## ★コーナーリングガイドの使い方



布端から 1.6cm (5/8 インチ) のところで直角にぬい方向をかえるときに使います。

- ① 布端がコーナーリングガイドのところきたらミシンを止め、はずみ車を手で手前にまわして針を布にさします。
- ② 押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。布端が針板右側のガイドライン 1.6cm (5/8 インチ) の位置に合います。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。

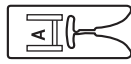
## ●ジグザグぬい

### ミシンのセット

模様

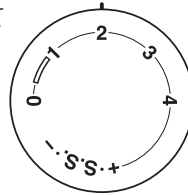
**C**  


押さえ



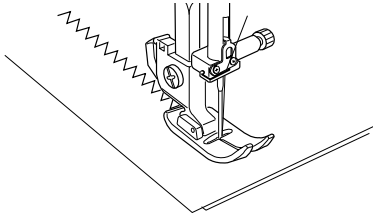
A: 基本押さえ

ぬい目のあらかさ  
0.5 ~ 4



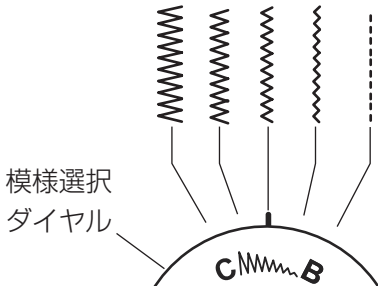
糸調子

1 ~ 5



アップリケやボタン付け、飾りぬいなどに使います。


伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には裏に芯地を貼るときれいにぬえます。



### 【ジグザグ幅の変更】

ジグザグ幅は、模様選択ダイヤルを「B」から「C」の間でまわして変更します。

《例》

ぬい目のあらかさ調節ダイヤルを「1」に合わせて、模様選択ダイヤルを「」の間でかえると、ジグザグ幅は、図のように変化します。

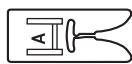
## ●ジグザグぬいのたち目かかり

### ミシンのセット

模様

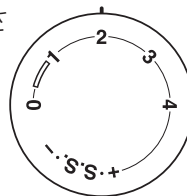
**C**  


押さえ



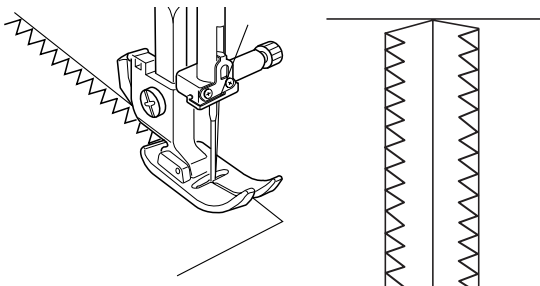
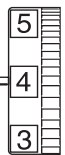
A: 基本押さえ

ぬい目のあらかさ  
1 ~ 2



糸調子


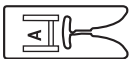
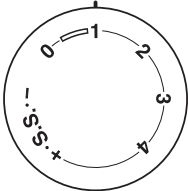

3 ~ 7

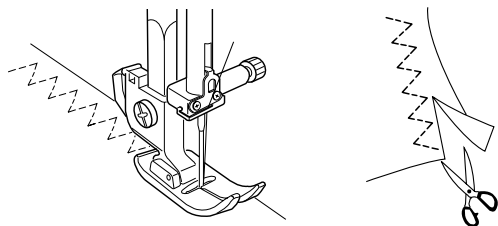


布端のほつれ止めとして広く使用します。

## ●トリコットぬいのたち目かがり

### ミシンのセット


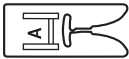
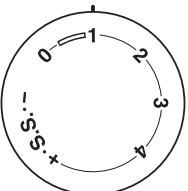

模様 <b>D</b> 	押さえ  A : 基本押さえ	ぬい目のあらかさ 0.5 ~ 1.5		糸調子 3 ~ 6 
---	---	-----------------------	---	---

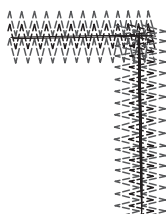
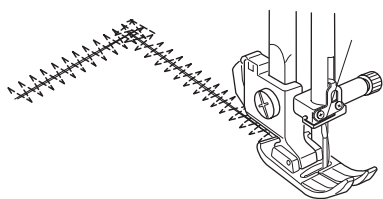


ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに使用します。  
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

## ●つくろいぬい

### ミシンのセット

模様 <b>D</b> 	押さえ  A : 基本押さえ	ぬい目のあらかさ 0.3 ~ 0.5		糸調子 3 ~ 6 
---	---	-----------------------	---	---



ほつれている部分のぬい合わせをします。

- ① ぬい目のあらかさを「0.3」～「0.5」で、ほつれた部分の布端をつき合わせてぬいます。
- ② ①でぬったぬい目の両側をぬいます。

※ ほつれ具合によって、裏側から別布をあててぬいます。



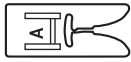
## ●ニットステッチ

### ミシンのセット

模様

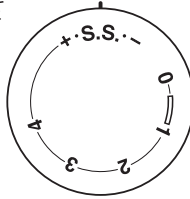
G

押さえ



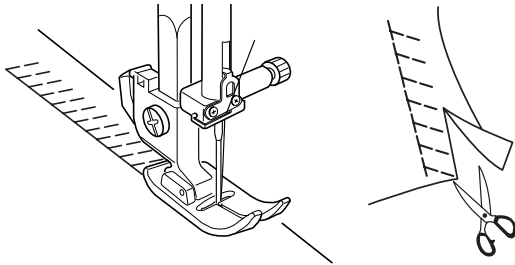
A: 基本押さえ

ぬい目のあらかさ  
S.S.



糸調子

3 ~ 7



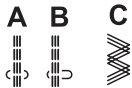
伸縮性布地(ニット地等)かがりぬいに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

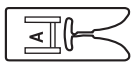
## ●三重ぬい

### ミシンのセット

模様

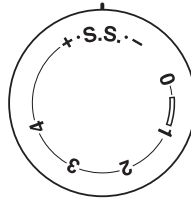


押さえ



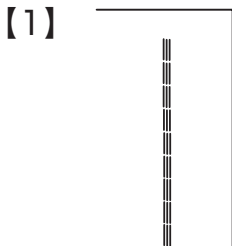
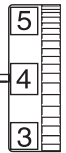
A: 基本押さえ

ぬい目のあらかさ  
S.S.



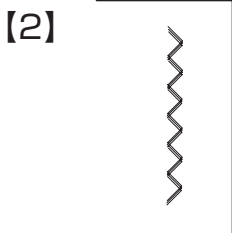
糸調子

2 ~ 5



### 【1】直線三重ぬい

丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬい等に使います。



### 【2】ジグザグ三重ぬい

飾りぬいに使います。

## ●ボタン付け

### ミシンのセット

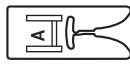
模様



※ ボタン穴の幅にジグザグ幅を  
合わせます。(21 ページ参照)

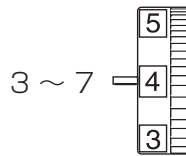
ぬい目のあらか  
(調節の必要はあ  
りません。)

押さえ



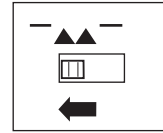
A: 基本押さえ

糸調子



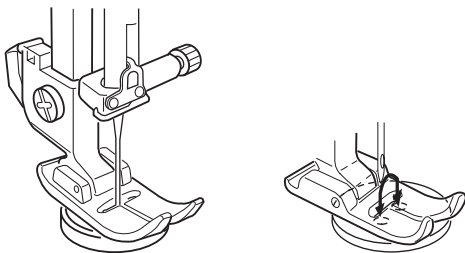
3 ~ 7

ドロップつまみ



送り歯をさげます。  
(7ページ参照)

①

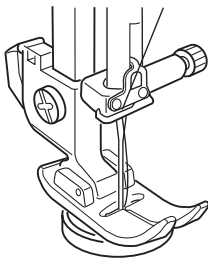


- ① はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。ボタンの左右の穴が真横にくるようにして、針が左右の穴におりることを確かめます。

### ⚠ 注意

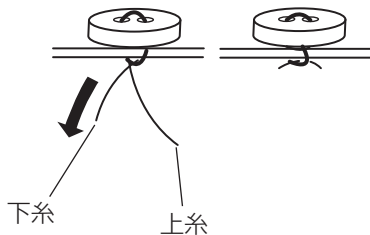
必ず針がボタンの穴の左右におりることを確認してください。ボタンに針があたると針が折れ、けがの原因になります。

②



- ② 10 針ほどぬいたらミシンを止めます。  
※ ぬい始めの上糸と下糸はハサミで切り取ってください。

③

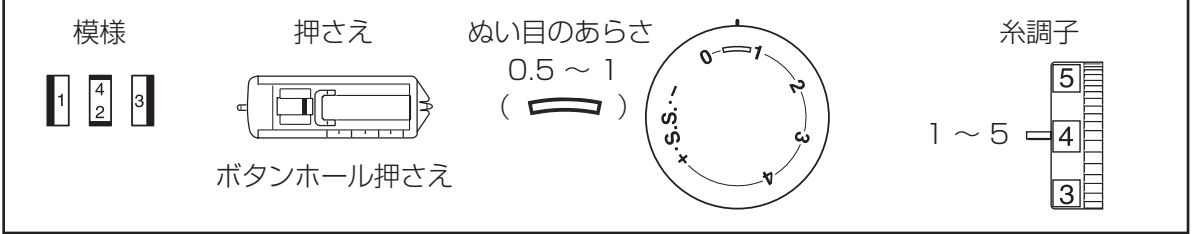


- ③ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸、下糸を 10 cm くらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

- ※ ぬい終わったらドロップつまみをもどして、送り歯をあげます。  
はずみ車を手前にまわすと、自動的に送り歯があがります。  
※ 送り歯のあげ方・さげ方は、7ページをごらんください。

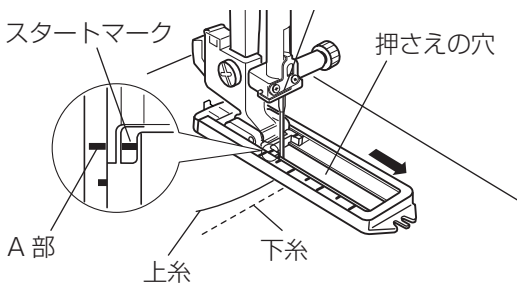
# ●ボタンホール

## ミシンのセット



- ※ ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確かめましょう。
- ※ 伸縮性のある布には、裏に芯地を貼ってください。

①



①

- 模様 **1** を選びます。  
上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。  
押さえを手前に引きスタートマークをA部の目盛りに合わせます。

②

- ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げてミシンをスタートし必要な長さまでぬってミシンを止めます。

③

- 針をあげて模様 **4** を選びます。  
かんぬきを5針くらいぬって、ミシンを止めます。

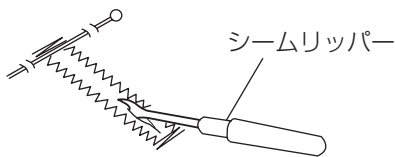
④

- 針をあげて模様 **3** を選びます。  
左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。

⑤

- 針をあげて模様 **4** を選びます。  
かんぬきを5針くらいぬって、ミシンを止めます。

⑥ ⑦

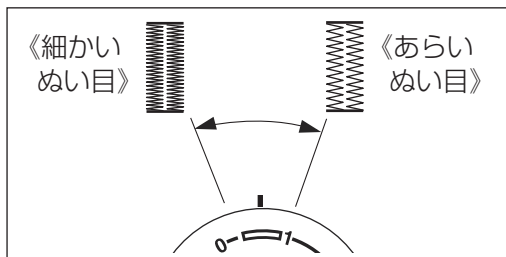


⑥


- 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。  
ぬい終わりの下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

⑦

- 片方のかんぬきの内側にまち針をさし、シームリッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

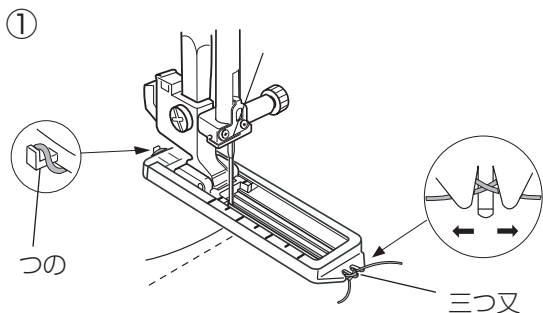
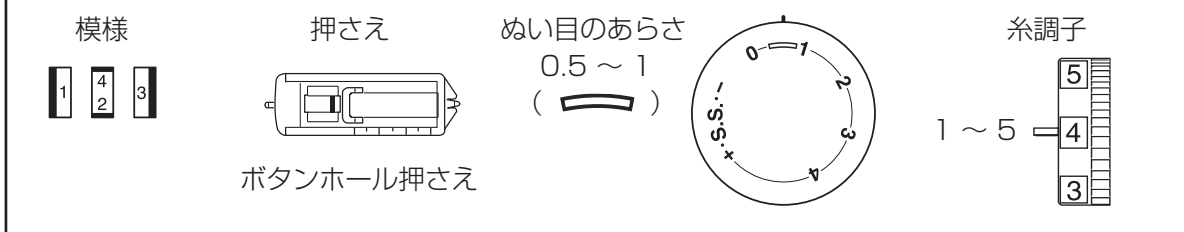


### 【ぬい目のあらかさ調節】

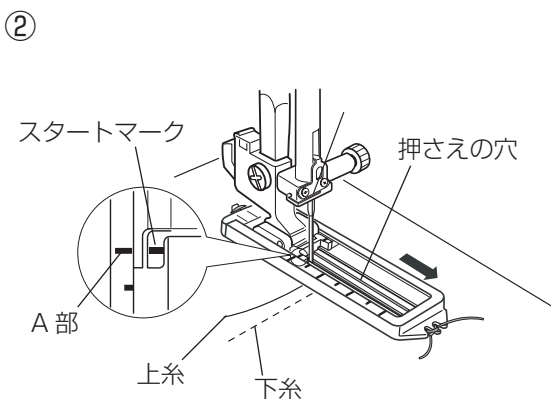
ボタンホールのぬい目のあらかさは、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルをまわして「」マークのはんいで調節します。

## ●芯入りボタンホール

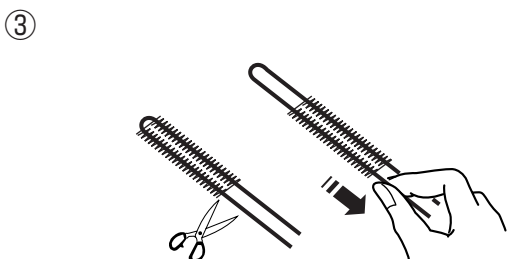
### ミシンのセット



- ① 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引きだし、前側の三つ又にはさみます。



- ② 上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。  
押さえを手前に引き、スタートマークをA部の目盛りに合わせます。  
ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。  
ミシンをスタートさせて、ボタンホールの手順と同じようにぬいます。



- ③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、25ページをごらんください。

# ●ファスナー付け

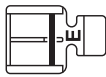
## ミシンのセット

模様

A



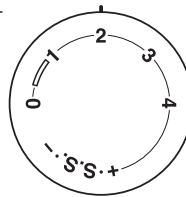
押さえ



E: ファスナー押さえ

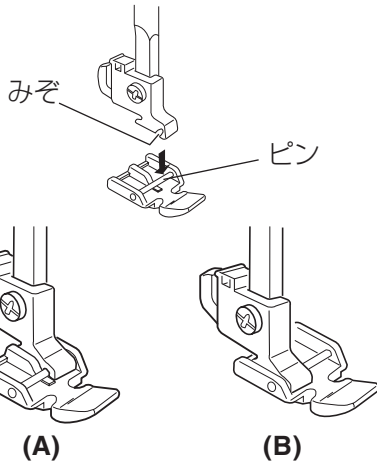
ぬい目のあかさ

1.5 ~ 4



糸調子

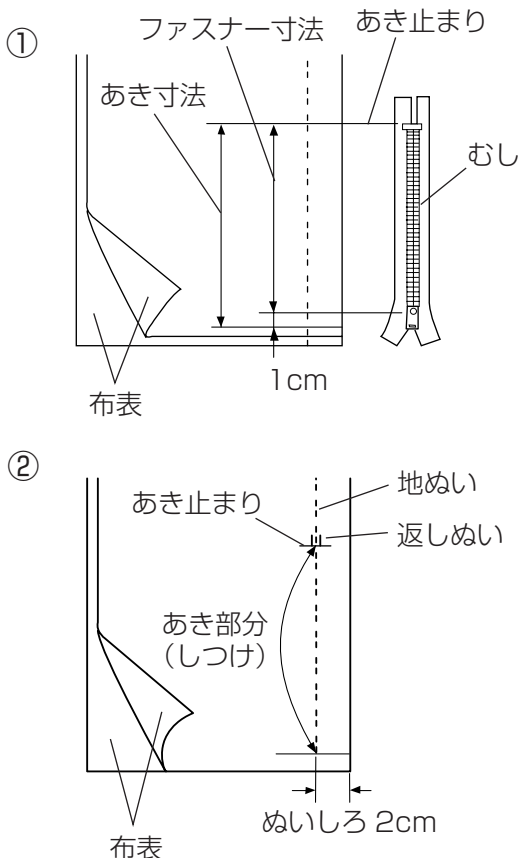
3 ~ 6



### 【ファスナー押さえの付け方】

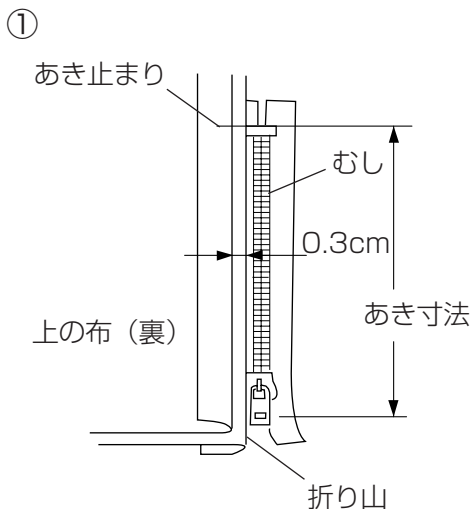
- (A) ファスナーのむしの左側をぬうときは、ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットします。
- (B) ファスナーのむしの右側をぬうときは、ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

### 【準備】



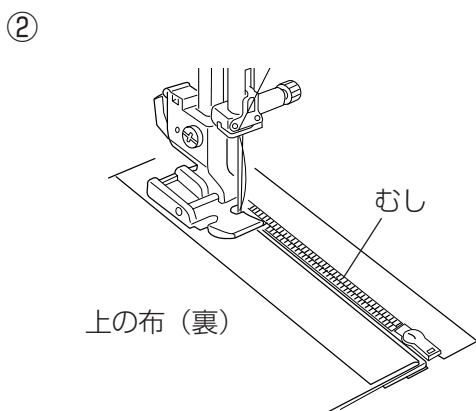
- ① ファスナーのあき寸法を確かめます。あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。
- ② 地ぬいとしつけをします。布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。地ぬいの部分は、A: 基本押さえを使ってぬいます。あき部分は、しつけぬいをします。あき部分のしつけは、ほどこやすくするために、ぬい目のあかさ「4」(約 0.4cm)、糸調子「1」くらいでぬいます。

※ しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび糸調子をもとにもどします。



## 【ぬい】

- ① めいしろを割り、下の布のめいしろ 0.3cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

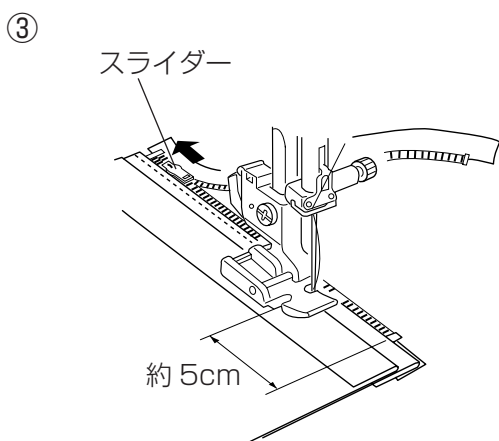


- ② ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットし、むしのきわを押さえの端（右側段部）にあて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ めい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

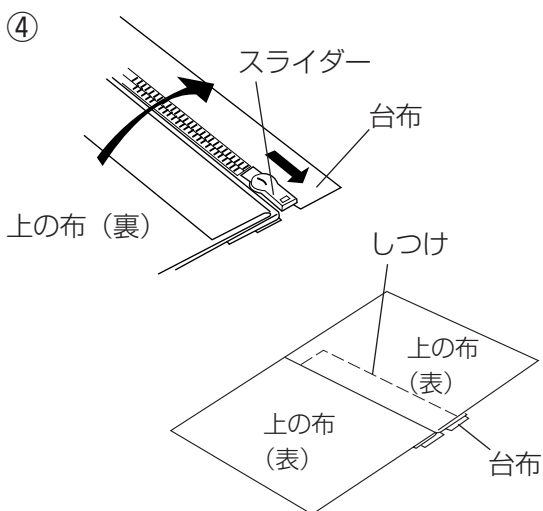
### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらぬように注意してください。針があたると、けがの原因になります。



- ③ ファスナーの端から約 5cm ほど手前でミシンを止め、針を布にさします。押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

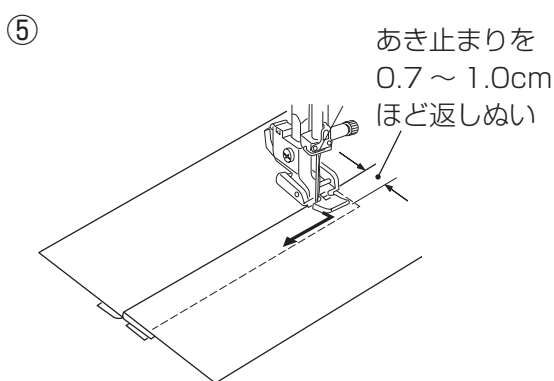
※ めい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



- ④ ファスナーを閉じ、スライダを上にあたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

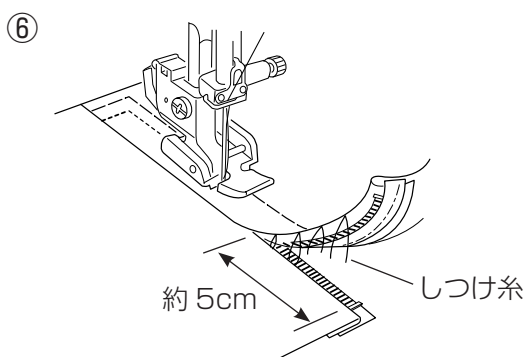
※ しつけは、A: 基本押さえを使用します。しつけは、ほどこきやすいように、ぬい目のあさを「4」（約0.4cm）、糸調子を「1」にしてぬいます。

※ しつけが終わったら、ぬい目のあさおよび糸調子をもとにもどします。

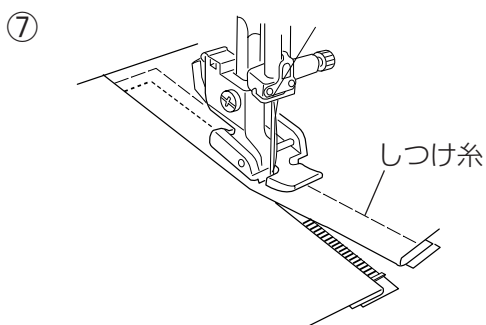


- ⑤ ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

上の布のあき止まりを0.7~1.0cmほど返しぬいをしてから、むしのきを押さえの端（左側段部）にあて、ファスナーの右側をぬいます。



- ⑥ ファスナーの上側を5cmくらい残したところでミシンを止め、針をさした状態で、押さえ上げをあげて、【準備】②でぬったしつけ糸をほどこき、スライダを押さえの向こう側にずらします。



- ⑦ 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら【ぬい】④でぬったしつけ糸をほどこきます。

### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらないように注意してください。針があたると、けがの原因になります。

# ●まつりぬい

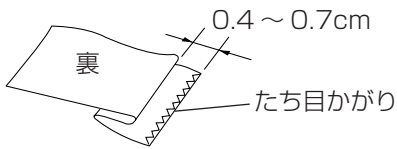
## ミシンのセット

<p>模様</p> <p><b>E</b></p> <p>または</p> <p><b>F</b></p>	<p>押さえ</p> <p>G: まつりぬい押さえ</p>	<p>ぬい目のあらかさ</p> <p>2 ~ 3</p>	<p>糸調子</p> <p>1 ~ 4</p>
--	-------------------------------	------------------------------	-------------------------

※模様 **E** は伸縮性のある布に使用します。

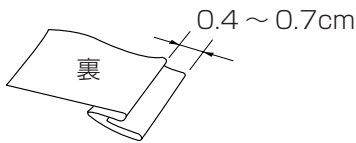
①

《厚い布の場合》

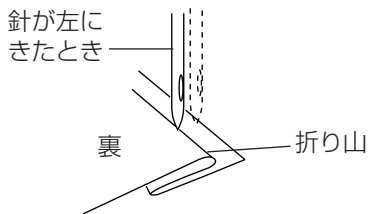


① 布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4 ~ 0.7cmほどはみ出させます。

《うすい布、普通の布の場合》

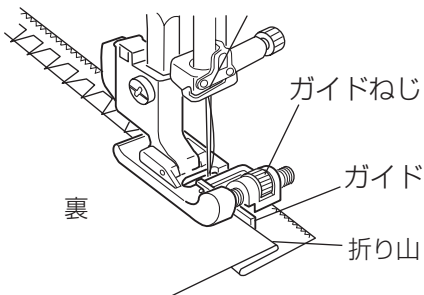


②



② 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

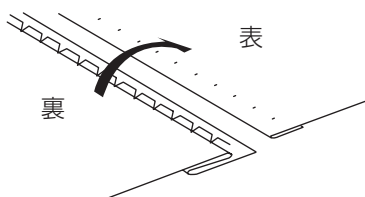
③



③ ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないようにぬいます。

※ 左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにません。

④



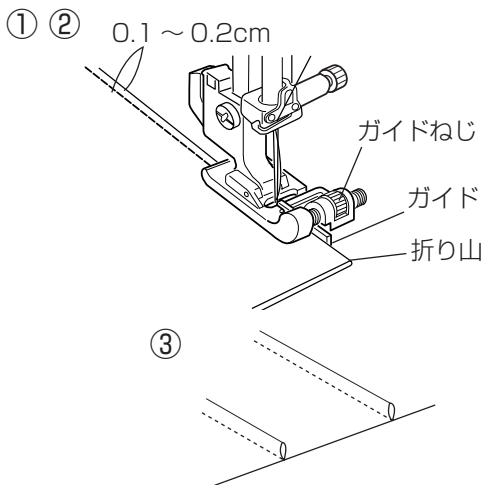
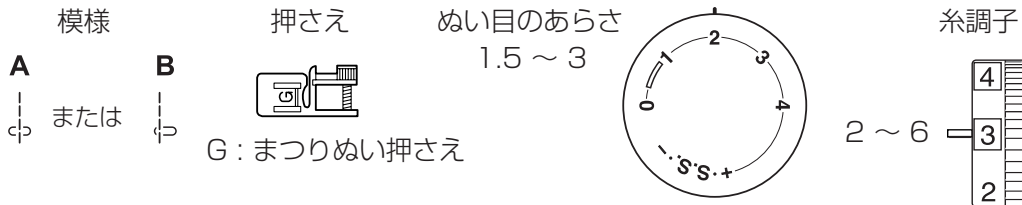
④ ぬい終わったら布を表に戻します。



# 飾りぬい

## ●ピンタック

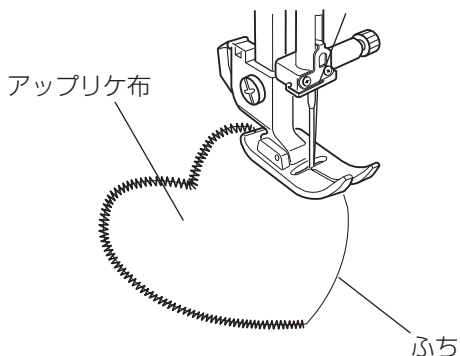
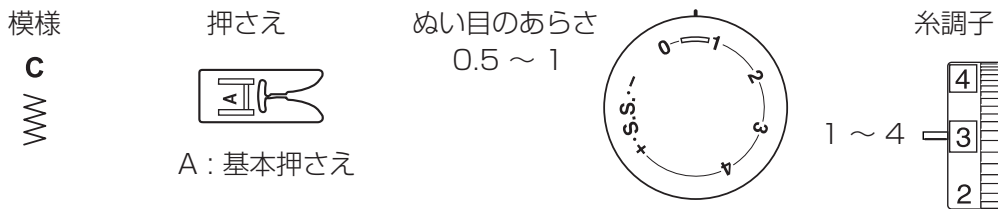
### ミシンのセット



- ① はずみ車を手で手前にまわして、針が折り山より 0.1 ~ 0.2cm 内側におりるように布を置いて、押さえ上げをさげます。
- ② ガイドねじをまわして、押さえのガイドを折り山に合わせてぬいます。
- ③ ぬい終わったら片返しにして、アイロンで整えます。

## ●アップリケ

### ミシンのセット



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。ジグザグ模様の右側の針位置のときに、アップリケ布の縁の外側にささるようにぬいます。

- ※ カーブのところや方向転換するところではアップリケ布の外側に針がきた位置でミシンを止めます。はずみ車を手で手前にまわして針をさげ、針を布にさしたまま押さえ上げをあげて方向をかえると、きれいに仕上がります。

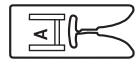
## ● シェルタック

### ミシンのセット

模様

G  
WV

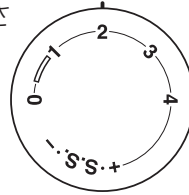
押さえ



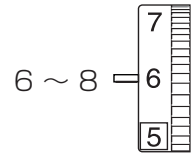
A: 基本押さえ

ぬい目のあらか

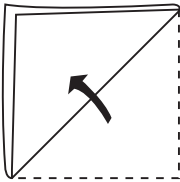
2 ~ 3



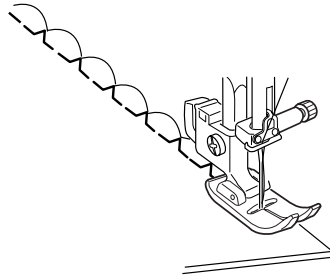
糸調子



①



②



① 布をバイアスに二つ折りにします。

② 針が右にきたとき布の折り山のきわ（布の外側）におりるようにしてぬいます。

※ 糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

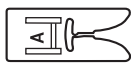
## ● パッチワーク

### ミシンのセット

模様

D  
W

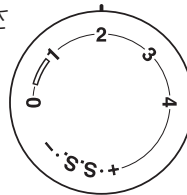
押さえ



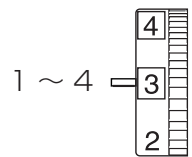
A: 基本押さえ

ぬい目のあらか

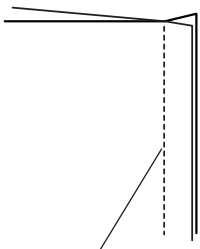
1 ~ 3



糸調子

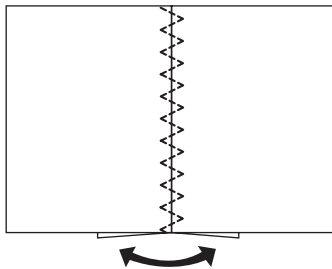


①



地ぬい

②



① 布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。

② 布を表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

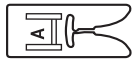
## ●スモッキング

### ミシンのセット

模様

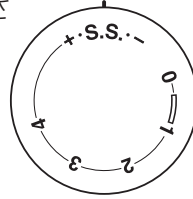


押さえ

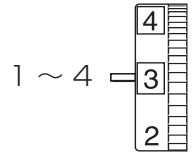


A: 基本押さえ

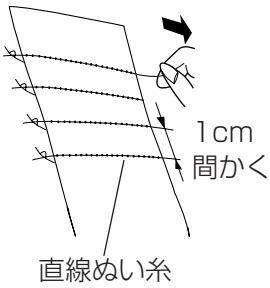
ぬい目のあらかさ  
S.S.



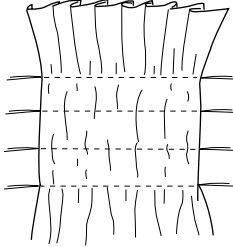
糸調子



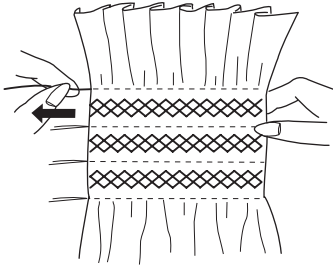
① ②



③



④



スモッキングは子供服やブラウスなどに使用するぬい方です。柔らかく、うすい生地 of 布を使用してください。

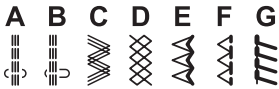
完成する幅よりも3倍ほど広くとった布を用意します。

- ① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に10cmほど引き出しておきます。
- ② 糸調子を「1」にし、ぬい目のあらかさ「4」の直線を1cm間かくで数本平行にぬいます。
- ③ 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
- ④ 糸調子を「4」にもどし、模様を選んで直線ぬいと直線ぬいのあいだに模様をぬいます。模様をぬったあと、直線ぬいの糸を抜き取ります。

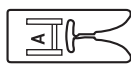
## ●スーパー模様

### ミシンのセット

模様

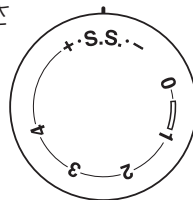


押さえ

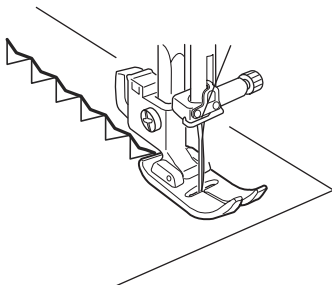
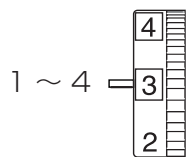


A: 基本押さえ

ぬい目のあらかさ  
S.S.



糸調子



飾りぬい等に使います。

布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

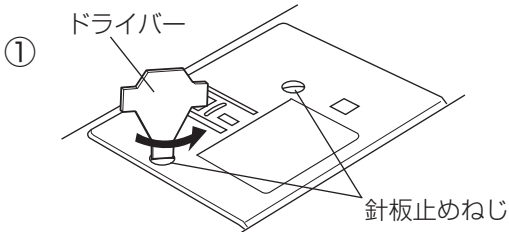
※ 模様の形の整え方は、18ページをごらんください。

# ミシンのお手入れ

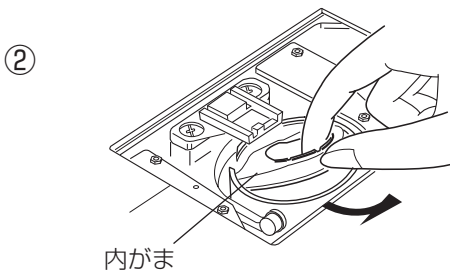
## ●かまと送り歯の掃除

### ⚠ 注意

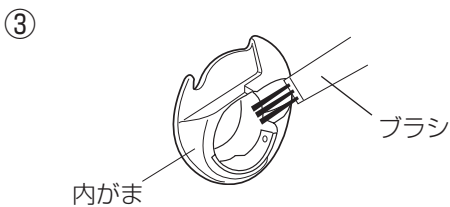
- ・お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
  - ・説明されている箇所以外は、分解しないでください。
- 感電、火災、けがの原因になります。



- ① 針と押さえホルダーを外します。  
針板止めねじ 2 箇所をドライバーで外し、  
針板を外します。

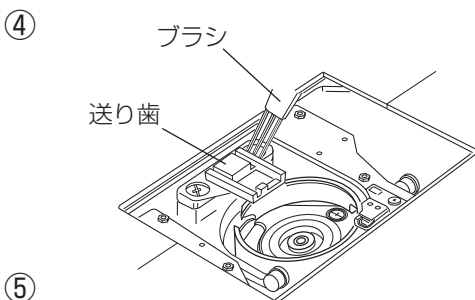


- ② ボビンを取り出し、内がまの手前を上にながら外します。

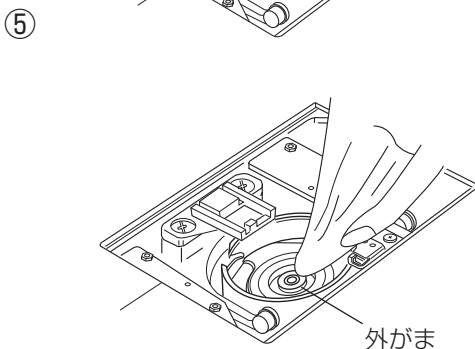


- ③ 内がまをブラシなどで掃除し、布切れで軽く  
ふきます。

※ ブラシは標準付属には含まれていません。



- ④ 送り歯のごみをブラシで手前に落とし、さら  
に外がまを掃除します。

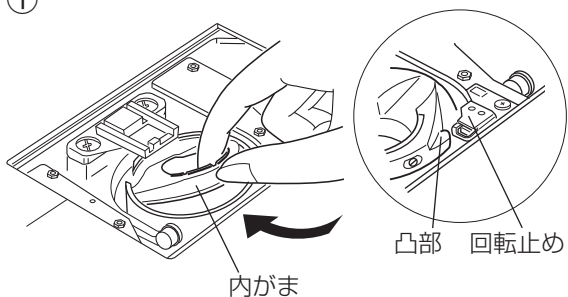


- ⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこ  
りは、掃除機などで吸い取ってください。

## ●内がまと針板の組み付け

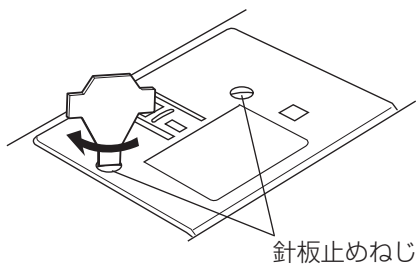
①



① 内がまを外がまに入れます。  
内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。

②



② ボビンを入れ、針板止めねじをしめます。

※ お手入れが終わったら、ボビン、角板、押さえホルダーと針などを忘れずに取り付けてください。

# ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所からみついている。</li> <li>2. 上糸調子が強すぎる。</li> <li>3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。</li> <li>4. 針の付け方がまちがっている。</li> <li>5. ぬい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。</li> <li>6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。</li> <li>7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。</li> </ol>	<p>13 ページ参照</p> <p>16 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p> <p>16 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下糸の通し方がまちがっている。</li> <li>2. 内がまの中にごみがたまっている。</li> <li>3. ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。</li> </ol>	<p>12 ページ参照</p> <p>34 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する。</p>
針がおれる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。</li> <li>3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。</li> <li>4. 布に対して針が細すぎる。</li> </ol>	<p>9 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p> <p>20 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p>
ぬい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 布に対して針と糸が合っていない。</li> <li>3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメプルー針（別売）を使っていない。</li> <li>4. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>5. 品質の悪い針を使用している。</li> </ol>	<p>9 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p> <p>針を交換する。</p>
ぬい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子があっていない。</li> <li>2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。</li> <li>3. 布に対して針が太すぎる。</li> </ol>	<p>16 ページ参照</p> <p>12、13 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 送り歯に糸くすがたまっている。</li> <li>2. 送り歯があがっていない。</li> </ol>	<p>34 ページ参照</p> <p>7 ページ参照</p>
ぬい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子が弱すぎる。</li> <li>2. 糸に対して針が細すぎる。</li> </ol>	<p>16 ページ参照</p> <p>9 ページ参照</p>
ミシンがまわらない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源のつなぎ方がまちがっている。</li> <li>2. かまに糸やごみがたまっている。</li> <li>3. 糸巻き軸が下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。（糸巻き状態になっている）</li> </ol>	<p>6 ページ参照</p> <p>34 ページ参照</p> <p>11 ページ参照</p>
ボタンホールがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伸縮性のある布のとき、芯地を使っていない。</li> </ol>	<p>芯地を貼る。</p>
音が高い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. かまの部分に糸くすがまき込まれている。</li> <li>2. 送り歯にごみがたまっている。</li> </ol>	<p>34 ページ参照</p> <p>34 ページ参照</p>

## 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店で渡す保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

## 修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

## 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

## お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

### 蛇の目ミシン工業株式会社

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地

お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)

042-661-2600

受付 平日 9:00～12:00 13:00～17:00

(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>

問合せフォームをご利用ください。

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	45W
外形寸法	幅38.2cm×奥行16.1cm×高さ28.2cm
質 量	5.2kg (本体)
使用針	HA X 1 (家庭用ミシン針)
最高ぬい速度	毎分755針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

M200FD①

508-809-165 ①